

こころの教育シンポジウム

## 第 3 回 関西・新「こころの教育」シンポジウム ご 案 内

主催 / 新「こころの教育」推進協議会

代 表 : 佐々木孝友 (大阪大学名誉教授)

実行委員長 : 岩坪昭子 (岐阜聖徳学園大学名誉教授、元大阪府・  
市教育委員会主任指導主事)

後援 / 大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会

### 主 題

知識基盤社会における新しい「こころの教育」のあり方

「生きる力」の基盤となる確かな「知・慧」をどう育てるか

### シンポジウム概要

日 時 : 平成 23 年 8 月 24 日 (水) 13 : 30 ~ 18 : 00

(受付 13 : 00 より)

場 所 : 大阪市北区民センター 2F ホール

(大阪市北区扇町2-1-27 TEL 06-6315-1500)

・地下鉄堺筋線「扇町」駅 2号-B出口北へ3分。JR環状線「天  
満」駅西へ3分

### スケジュール :

13 : 30 開会の辞

13 : 35 特別講演 「これからの教育を考える」

大槻 達也氏（国立教育政策研究所次長・元初中局教育課程課長）

14：25 特別講演 「沈黙」

森本 晴生氏（新渡戸文化学園学園長・新渡戸文化短期大学教授）

15：15 基調講演 「考えない力とこころの教育」

丸川 雄浄氏（工学博士・中国東北大学特任教授・人間禅師家）

16：05 休憩

16：15 ワーキングショップ（こころの教育のための「数息観法」と「沈黙」の実践）

笠倉 奈都氏（禅書道会主宰、桜美林大学講師）

16：45 パネルディスカッション「これからのこころの教育の進め方について」

課題提起 坂本 光江氏（大阪成蹊短期大学准教授）

佐々木孝友氏（大阪大学名誉教授）

笠倉 奈都氏 他講演者

18：00 閉会の辞

## 申し込み方法

氏名、住所 を明記の上、e-mail または FAX で下記まで。

（申込期限 8 / 1 1（木））

・ e-mail: stu-ueda@hotmail.com、 FAX: 06-6848-0890

・ 上田信也 新「こころの教育」推進協議会事務局 宛

**第3回 関西・新「こころの教育」シンポジウム  
参加申し込み書**

氏名 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

連絡先（TELまたはe-mail） \_\_\_\_\_

参加費：2000円

振り込み先：三菱東京UFJ銀行 千里中央支店

普通口座1246230 名義：佐々木 孝友

（ 当日参加、当日参加費支払いも受け付けます。）

**第3回 関西・新「こころの教育」シンポジウム  
内 容**

**趣旨**

先生方は、学級経営や学習指導、生活指導、いろいろな問題について悩んでいらっしゃいませんか？

授業中、立ち歩いて落ちつかない子、人の話をしっかり聞けない子、自分本位で腹が立つとすぐ手を出す子、学習に興味を持てない子、学習に集中できない子、物事を深く考えようとしない子……。

現代社会における科学の急激な進歩や経済的な発展は豊かさや便利さ、自由でスピーディな社会を現出しました。しかし、その一方で、世界的な経済恐慌

や環境破壊、かつて有り得なかった凶悪犯罪や青少年犯罪の激増、年間3万人に及ぶ自殺者や鬱病の増加……、社会の進展に伴う負の代償はあまりにも大きいものでありました。

時あたかも、東北を襲った大地震は、人間の英知の所産に対する大自然の強烈な挑戦であり、科学と人間はいかにあるべきかについて、切実な問題提起となりました。しかし、その一方で「他を思いやる」という日本人の伝統的な心の遺風は、まだ健在であるという救いを与えてくれました。科学の進展は歴史の必然であり、人間はこれを回避できない以上、科学に対する人間の在り方、生き方の問題について今ほど考えなければならない時はないと思われます。開かれた社会にあっては、社会全体が子どもを教育するわけです。子どもの問題行動も一つ学校教育だけの課題でなく、すべての大人が考えるべき問題なのです。

本シンポジウムでは、ここに問題意識を据えて、文科省、教育界、宗教界の先生方のご講演をお聞きした上で、現代の知識基盤社会における新しい「こころの教育」の在り方やその実践的方途について、参会者の皆様と考えたいと思います。

## 1 特別講演 「これからの教育を考える」

大槻 達也氏(国立教育政策研究所次長・元初中局教育課程課長)

新しい学習指導要領が本格実施に移されつつあるこの時期に、改めて、PISA等の各種学力調査の結果から子どもたちの実態を読み解くとともに、学校教育を受ける子どもたちが生き抜いていく時代について考え、これからの教育の課題について検討してみたいと思います。また、東日本大震災という大きな災害によって、何が学校教育に問われているかについて私見を述べてみたいと思います。

## 2 特別講演 「沈黙」

森本 晴生氏(新渡戸文化学園学園長・新渡戸文化短期大学教授)

学校には、公立の小中学校のように地域に密着するものと、高校以上のように広い地域から入学生があるものがあります。地域密着型であっても、それぞれに違った環境の中で違った経験をしてきた学生・生徒を同じ主題に集中させることは難しいものです。初代校長であった新渡戸稲造が国際連盟の事務次長であったときに導入した「沈黙」を学校教育に導入し、気持ちの違いを越えて共通理解が進むように努めています。

### 3 基調講演 「考えない力とこころの教育」

丸川 雄浄氏(工学博士・中国東北大学特任教授・人間禅師家)

3万人を超える自殺者が13年間継続している現代日本の課題は、知と慧(知性と感性)のバランスの欠如であり、とりわけ慧(感性)が知(知性)に比して脆弱であることに起因しています。慧(感性)を豊かにするための方策は、知(知性)を一時的に止めたり、棚上げにしたりする意志の力を付けることであり、すなわちそれは「考えない力」を養うと云うことです。「考えない力」とは、今考えなければいけないこと以外は考えないということであり、「考えない力」によって三昧力、集中力が身に付きます。この「考えない力」の養成を学校教育の根幹に据えることが、真の「こころの教育」になり、得られた三昧力、集中力は知と慧のバランスのとれた人間教育につながるものであります。

＊ ＊ ＊